

3. 主要事業の概要

【事業規模(営業収益)】

(単位:千円)

事業名	令和5年度 実績	令和6年度 実績	令和7年度		令和8年度 当初予算	備 考
			当初予算	実績		
① 花き卸売市場賃貸	633,209	624,274	617,023	566,862	523,497	
全事業合計に占める割合	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
全事業合計	633,209	624,274	617,023	566,862	523,497	

※単位未満は四捨五入を原則としたため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

【事業計画及び事業実績】

事業名	事 項	事業量			備 考
		令和7年度計画	令和7年度実績	令和8年度計画	
①花き卸売市場賃貸	施設の管理運営 大阪鶴見花き地方卸売市場	取扱高 26,905,417千円	取扱高 23,374,907千円	取扱高 23,000,000千円	

株式会社大阪鶴見フラワーセンター

4. 大阪府の財政的関与の状況

(単位:千円)

区 分	令和5年度 実績	令和6年度 実績	令和7年度		令和8年度 当初予算	補助金、委託料等の内容
			当初予算	実績		
補 助 金	0	0	0	0	0	
委 託 料	0	0	0	0	0	
貸 付 金	0	0	0	0	0	
その他(分担金・負担金・出捐金等)	0	0	0	0	0	
合 計	0	0	0	0	0	

(単位:千円)

区 分	令和5年度	令和6年度	令和7年度
府損失補償・債務保証契約に係る債務残高(期末)	0	0	0
府借入金残高(期末)	0	0	0

5. 財務状況

(単位:千円)

		令和5年度	令和6年度	令和7年度	前年度比増減	分析・評価
貸借対照表	資産合計	2,521,113	2,237,005	2,209,016	△ 27,989	(現金預金) 現金預金の減少については、有形固定資産の取得に伴う投資活動によるキャッシュフローの減(85,826千円)、借入金返済に伴う財務活動によるキャッシュフローの減(64,315千円)があった一方で、事業運営に伴う営業活動によるキャッシュフローの増(94,797千円)があったことによるものである。
	流動資産	749,463	743,981	643,411	△ 100,570	(その他流動資産) その他流動資産の減少については、リース投資資産の回収による減(48,072千円)が主な要因である。
	現金預金	628,537	630,307	574,963	△ 55,344	(有形固定資産) 有形固定資産の増加については、3階平面駐車場床防水工事による構築物の増(68,660千円)が主な要因である。
	未収金	1,776	1,448	1,505	57	
	その他流動資産	119,150	112,227	66,943	△ 45,284	
	固定資産	1,771,650	1,493,024	1,565,605	72,581	
	有形固定資産	1,543,503	1,481,921	1,554,667	72,746	
	無形固定資産	169,996	820	655	△ 165	
	その他固定資産	58,150	10,283	10,283	0	
	負債合計	535,458	243,917	241,642	△ 2,275	
	流動負債	274,106	138,096	144,908	6,812	(短期借入金) 短期借入金の減少については、借入金の返済による減(54,115千円)が要因である。
	短期借入金	84,938	64,315	10,200	△ 54,115	
	未払金	103,881	52,006	122,399	70,393	(未払金) 未払金の増加については、3階平面駐車場床防水工事(94,600千円)が主な要因である。
	その他流動負債	85,288	21,775	12,309	△ 9,466	
	固定負債	261,352	105,821	96,734	△ 9,087	(その他流動負債) その他流動負債の減少については、前年度に未払消費税として計上していた当該消費税を支払ったことによる減(9,881千円)が主な要因である。
	長期借入金	166,015	10,200	0	△ 10,200	
	各種引当金	2,737	3,021	4,134	1,113	
	その他固定負債	92,600	92,600	92,600	0	
	資本合計	1,985,654	1,993,088	1,967,374	△ 25,714	(長期借入金) 長期借入金の減少については、一年以内返済予定額を短期借入金に振替えたことによる減(10,200千円)が要因である。
	資本金	1,800,000	1,800,000	1,800,000	0	
	剰余金	185,854	193,288	167,574	△ 25,714	
	自己株式	△ 200	△ 200	△ 200	0	

損益計算書	売上高	633,209	624,274	566,862	△ 57,412	(売上高) 売上高の減少については、取扱高減少による売上高使用料収入の減(44,298千円)、一部システムの回収期間が終了したことに伴うシステム賃貸料収入の減(9,378千円)が主な要因である。
	売上原価	469,246	529,134	500,545	△ 28,589	(売上原価) 売上原価の減少については、業務委託料の減(11,682千円)、減価償却費の減(11,220千円)が主な要因である。
	販売費及び一般管理費	138,693	84,889	77,877	△ 7,012	
	営業利益(損失)	25,269	10,250	△ 11,559	△ 21,809	
	営業外収益	25,790	6,398	7,543	1,145	
	営業外費用	1,489	1,313	623	△ 690	
	経常利益(損失)	49,570	15,335	△ 4,640	△ 19,975	
	特別利益	0	0	0	0	(特別損失) 特別損失については、使用しなくなった旧セリシステムを売却したこと等による固定資産除却損(4,709千円)及び3階平面駐車場防水工事に伴う既存設備の撤去等による固定資産撤去費(14,670千円)によるものである。
	特別損失	15,488	6,148	19,379	13,231	
	法人税等	6,101	1,753	1,696	△ 57	
	当期利益(損失)	27,981	7,434	△ 25,715	△ 33,149	
	繰越利益剰余金	85,854	93,288	67,574	△ 25,714	

※単位未満は四捨五入を原則としたため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

株式会社大阪鶴見フラワーセンター

(単位: 千円)

仕組債の保有状況	保有総額<令和7年3月31日時点>	保有総額(A)<令和8年3月31日時点>	時価評価額(B)<令和8年3月31日時点>	保有総額と時価評価額差(B)-(A)
	0	0	0	0

主な経常費用	令和5年度	令和6年度	令和7年度	前年度比増減	分析・評価
役員人件費	16,121	19,021	19,020	△ 1	(減価償却費) 減価償却費の減少については、ネット取引サー バ等の減価償却期間が終了したことによる減 (10,405千円)が主な要因である。
職員人件費	44,232	38,589	36,186	△ 2,403	
退職給付費用	710	284	1,113	829	
減価償却費	168,317	153,623	142,403	△ 11,220	

主要経営指標		令和5年度	令和6年度	令和7年度	前年度比増減	分析・評価
人件費比率	人件費／売上高	9.6%	9.3%	9.9%	0.6%pt	(流動比率) 流動比率の減少については、現金預金の減(55,344千円)、 リース投資資産の減(48,072千円)による流動資産の減 (100,570千円)が主な要因である。
販売管理費比率	販売費及び一般管理費／売上高	21.9%	13.6%	13.7%	0.1%pt	
総資産当期利益率	当期利益／総資産	1.1%	0.3%	-1.2%	-1.5%pt	(売上高経常利益率) 売上高経常利益率の減少については、売上高使用料収入 の減(44,298千円)による売上高の減(57,412千円)に伴い、 経常利益が19,975千円減少したことが主な要因である。
総資産回転期間	総資産／(売上高／12)(月)	47.78	43.00	46.76	3.76	
売上高経常利益率	経常利益／売上高	7.8%	2.5%	-0.8%	-3.3%pt	
流動比率	流動資産／流動負債	273.4%	538.7%	444.0%	-94.7%pt	
借入金比率	借入金残高／総資産	10.0%	3.3%	0.5%	-2.8%pt	

6. R7年度 経営目標の達成状況

Ⅰ. 最重点目標(成果測定指標)

戦略目標	成果測定指標	単位	R6実績値	R7目標値	R7実績値 (※1)	ウエイト	得点 (※2)	小計 (※3)
① 収益の確保	当期経常利益	千円	15,335	23,000	△ 4,640	45	0	0/45 【0%】

Ⅱ. 設立目的と事業内容の適合性(事業効果、業績、CS)

③ 市場活性化の取組み	消費拡大のためのイベント、ワークショップ等の開催、支援	回	5	5	5	15	15	40/40 【100%】
	市場関係者が産地等と連携して行う展示会、商談会の開催等	回	14	14	14	10	10	
④ CS調査	花き卸売市場に対する市場関係者の不満足度	%	10.9	11.0	10.9	15	15	

Ⅲ. 健全性・採算性(財務)、コスト抑制と経営資源の有効活用・自立性の向上(効率性)

② 環境に対する負荷の軽減	廃棄物の再資源化率 (再資源廃棄物(t)／廃棄物総量(t))	%	75.4	78.0	75.4	15	0	0/0 【0%】
---------------	-----------------------------------	---	------	------	------	----	---	-------------

※1 網掛けは目標達成項目。

※2 目標値が前年度実績以上の場合、当該年度の実績値が目標値に到達しないときでも、達成状況に応じて加点を行う。

※3 小計の【 】は得点率。

7. 法人による評価結果

法人の総合的評価結果	点数(合計)
当市場を取り巻く近年の花き流通は「市場規模の縮小」、「物流課題の深刻化」、「生産地の構造的課題」など多くの問題に直面しており、R7年度はそれらに加えて夏場の異常気象が花きの品質低下、入荷量の減少、出荷時期のずれなど、市場の需給安定に大きな影響を及ぼした。 R7年度の花き市場の取扱高に応じて収入する使用料は前期に比べ44百万円減少、システム賃貸料収入が9百万円減少したこと等により、売上高が前期比57百万円下回り、5億67百万円となった。また、営業費用については、業務委託料16百万円、減価償却費11百万円の減小等により前期と比べ36百万円減の5億78百万円となった。「当期経常利益」は△5百万円となり、目標未達成となった。 消費拡大のためのイベント等の開催支援や市場関係者と生産地が連携して行う展示会・商談会は、目標どおりに実施できた。ただし、廃棄物の再資源化率については、再資源化の難しい花き類の廃棄ロスが増加したことにより、目標未達成となった。 今後は交流施設跡3階の改修による市場機能向上や他市場との連携拡大による取扱量の増加等に加え、交流施設跡4・5階の活用等の取組みを進め、より安定的な収益構造の構築を目指す。	40

8. 府の審査・評価の結果

審査の結果	経営状況、事業の実施状況その他の事項に関する府の評価結果及び指導・助言	点数(合計)	役員業績評価
①「収益の確保」について 令和7年度の大阪鶴見花き地方卸売市場における花きの取扱数量は、猛暑や天候不順等の影響を受け約5%減少し、取扱金額は前年と比べ12%減少した。その結果、卸売業者からの売上高使用料が減少したこと等により、売上高は前年度と比べ約57百万円減少した。 一方、営業費用については、業務委託料16百万円、減価償却費11百万円の減小等により前期と比べ36百万円減となったことから、経常損失が約5百万円となり目標未達成となった。 ②「環境に対する負荷の軽減」について 酷暑や物流の長時間化などが花きの品質保持に影響し、分別等について場内事業者の協力を得ながら廃棄物の再資源化に努めたものの、再資源化が困難な花き類の廃棄ロスが増加したことにより、再資源化率は75.4%にとどまり、目標未達成となった。 ③「市場活性化の取組み」について 消費拡大のためのイベント、ワークショップ等や、市場関係者が産地等と連携して行う展示会、商談会については着実に実施し目標を達成した。 ④「CS調査」について 卸、仲卸、仕分け業者、買受人の代表者へのアンケート結果に基づき、必要な改善に努めた結果、目標を達成した。 猛暑による花きの品質低下・入荷量の減少・出荷時期のずれなど、花きの取扱金額が減少したことから、今年度は単年度黒字を達成できなかった。花き市場を取り巻く環境は厳しいが、経費節減と併せて売上高の増加に向けた効果的な市場運営の取組みを進め、健全な財務状況への回復に努める必要がある。選ばれる市場として施設整備等による交流施設跡の有効活用や市場間連携等の取組みに努め、売上高の増加に結びつけていくことを求めていく。	(評価) ・最重点目標の「当期経常利益」については、猛暑等の影響も受け、取扱高の減少等により経常損失を計上し、目標に対して大幅な未達成となった。近年、当期経常利益額は縮減傾向にあり、収益構造の改善に向けた取組みを一層強力に推進する必要がある。 ・「消費拡大のためのイベント、ワークショップ等の開催・支援」及び「市場関係者が産地等と連携して行う展示会、商談会の開催等」については継続して目標を達成しており、市場活性化に向けた取組みを着実に実施している。 (指導・助言) ・中期経営計画に掲げる収益確保に向けた取組みを着実に推進すること。特に、建物4階・5階の交流施設跡部分については、維持管理費等の費用が継続的に発生していることから、活用方策の検討・協議を加速し、収益化を図ること。 ・また、建物3階の施設整備については、引き続き整備が進んだ箇所から順次活用し、投資の効果を早期に発現できるよう、市場機能の向上や売上高の増加につなげることを。 ・府保有株式の売却による法人の民営化を見据え、まずは中期経営計画に掲げる令和11年度以降の経常利益の黒字転換をめざし、企業価値向上に向けた取組みを推進すること。	40	C

《参考》9. 「令和8年度大阪府行政経営の取組み」における方向性(令和8年2月)

○民営化 ・府保有の株式の売却による民営化 ・ただし、売却時期については、今後必要となる大規模修繕等を踏まえ、企業価値を見極めた上で判断する

《参考》10. 経営目標設定の考え方

ミッション

○安定的な花きの流通の維持

- ・消費者に新鮮で多彩な花をより早く届けるために、質・量ともに豊富で安定的な供給体制をつくる。

○市場機能の向上・経営の安定化

- ・事業環境の変化に対応し、生産地と買受人に選ばれる卸売市場を目指した取組みを強化する。こうした取組み等により、集荷力の向上を図り、経営の安定化につなげる。

■大阪府の施策

- ・花きの安定供給、卸売市場の取引の合理化・機能の高度化

基本方針

1 市場機能の向上・施設整備の推進

- ・市場エリアを拡大することにより、取扱量の増加を目指すとともに他市場との連携を強化する。
- ・多様な課題に対応できるよう、施設整備を実施し新たな市場機能を強化、魅力ある市場を目指す。
- ・場内事業者に対し効率的で快適に利用できる安定した環境を提供する。

2 消費拡大の推進・環境負荷軽減

- ・需要の創出を図る観点から、花き事業者・一般消費者双方に向けた直接・間接的に消費拡大に繋がる取組みを行う。
- ・花きの梱包・包装等の廃棄物を大量に排出するため、環境に対する負荷軽減に向けた取組みを行う。

戦略目標と成果測定指標【中期経営計画上の目標値】

① 収益の確保

- ・当期経常利益
【△4,640千円(R7実績)→△25,050千円(R10)】

② 市場機能の向上

- ・市場機能の向上のための施設整備

③ CS調査

- ・花き卸売市場に対する市場関係者の不満足度
【10.9%(R7実績)→11.0%(R10)】

④ 消費拡大の推進

- ・消費拡大のためのイベント、ワークショップ等の開催、支援
【5回(R7実績)→5回(R10)】
- ・市場関係者が産地等と連携して行う展示会、商談会の開催等
【14回(R7実績)→14回(R10)】

⑤ 環境に対する負荷の軽減

- ・廃棄物の再資源化率
【75.4%(R7実績)→78.0%(R10)】

Ⅱ. 設立目的と事業内容の適合性(事業効果、業績、CS)

戦略目標	成果測定指標	単位	R6実績値	R7実績値	R8目標値	ウエイト (R8)	中期経営計画 最終年度 目標値(R10)	戦略目標達成のための活動事項
② 市場機能の向上	市場機能の向上のための施設整備	件	(0)	(2)	2	15	-	市場として24時間稼働している中、花きの流通を維持しながら工事を施工しなければならない困難な取組みであるが、場内事業者との調整を図り、2つの施設設備を完了させる。 <令和8年度実施> 【3階交流施設跡フラット化(2期)】 交流施設跡3階広場部分のフラット化により、荷捌きスペースの拡充、駐車場から店舗跡への台車走行の円滑化を行う。 【垂直搬送機設置】 1階卸売市場部分と交流施設跡3階を繋ぐ垂直搬送設備を設置することにより、3階での入出荷の拡大を図る。 ※(参考) 3階交流施設跡にかかる施設整備計画 ・令和9年度 令和10年度の工事に向けた区割再編工事の完了 ・令和10年度 定温保管倉庫の整備完了
③ CS調査	花き卸売市場に対する市場関係者の不満足度	%	10.9	10.9	11.0	15	11	以下のような場内環境の改善を行う。 ・3階交流施設跡フラット化による荷捌き場としての利用 ・繁忙期の駐車場でのガードマンの配置 ・繁忙期の駐車場所、駐車時間に関する周知 ・1階卸売市場部分と交流施設跡3階を繋ぐ垂直搬送機の設置による場内物流の効率化と引き渡し時間の短縮
④ 消費拡大の推進	消費拡大のためのイベント、ワークショップ等の開催、支援	回	5	5	5	10	5	他団体との連携や地域に密着したイベントへの参加等、実施に際しては費用面や内容等も工夫し実施する。
	市場関係者が産地等と連携して行う展示会、商談会の開催等	回	14	14	14	10	14	市場内ギャラリーで各産地の開発商品を展示するなど、展示会や商談会が、卸売業者や産地にとって最適な時期に必要な回数実施できるよう支援していく。

Ⅲ. 健全性・採算性(財務)、コスト抑制と経営資源の有効活用・自立性の向上(効率性)

⑤ 環境に対する負荷の軽減	廃棄物の再資源化率 (再資源廃棄物(t)／廃棄物総量(t))	%	75.4	75.4	75.4	10	78.0	廃棄物総量に占める一般廃棄物の割合を低下させることにより、廃棄物処理費用の抑制(財務の健全性)を図るとともに、花き包装容器等の廃棄物を大量に排出することから、引き続き、環境に対する負荷の軽減に向けて取り組んでいく。
---------------	-----------------------------------	---	------	------	------	----	------	--

※()は当該年度の経営目標として設定していないため、参考として記入した実績値